

書誌第102号追

本州北西岸水路誌

追補第2

令和4年（2022）12月16日発行



海上保安庁

本州北西岸水路誌

追補第2

この追補は、令和4年3月刊行の本州北西岸水路誌の記載事項を更新するもので、令和4年11月25日までに入手した資料を基に編集したものです。

追補は、更新情報を記載した「本文」と、それを検索するため、ページ番号等を記載した「索引」から構成されています。

「索引」については、更新箇所の表題や港名等を記載し、ページ番号順に並べています。

「本文」については、本追補の更新箇所は、灰色背景で赤色文字にて示しています。

【】で囲んだ内容は、削除や差し替えを行うことを意味しています。

図の挿入等によりページ内に収まらない場合は、水路誌本誌とのページ番号を整合させるため、追補においては、便宜的に枝番号を付しています。

令和4年12月16日

海上保安庁海洋情報部

注 意

海上保安庁は、各国が発布した諸法規、宣言、海図及び水路通報・航行警報並びに船舶等からの視認報告のうち、船舶交通の安全の確保と海洋環境の保全という観点から、航海の安全及び環境保全に影響を与える可能性のある情報については、水路通報及び航行警報により周知するほか、海上保安庁の海図その他の航海用刊行物にも掲載するようにしています。

これらの情報を利用するにあたっては、海上保安庁によるこれらの情報提供は、航海の安全等のための利用を目的としており、その内容は日本政府がこれらの諸法規、宣言等を承認したことを意味するものではない点に留意してください。

ページ	更新箇所(表題、港名等)	備考
12	水先人会	
16	漁業	
42	本州北岸	
83	境港	
88	松江港	
93	余部崎～経ヶ岬	
104	舞鶴港	
120	金沢港	
126	禄剛崎～長手崎	
143	新湊区及び付近	
148	姫川港	
160	沢崎鼻～台ヶ鼻	
161	二見港	
177	秋田区	
188	平館海峡及び付近	
208	地名索引	

各港湾付近及び陸岸寄りの灯光による航路標識は、背後の灯火及び漁火などにより見えにくいことがある。

浮標式 日本国内では、IALA(国際航路標識協会)海上浮標式(B方式)を採用している。

水源 主航路から港湾に接続する航路は港湾側を、また港湾内における航路については、通常船舶が停止して荷役するところを、左舷標識及び右舷標識の方向の基準となる“水源”と定めている。

第 6 章 水 先

水 先 区

水先区とは、水先法の適用される区域で、名称及び区域は政令で定めるものをいう(水先法第 33 条、同法施行令第 3 条)。この水路誌の記載区域内の水先区は、次表のとおりである。

水 先 区	区 域
境	境港の区域
舞 鶴	舞鶴港の区域
七 尾	七尾港及び付近
伏 木	阿尾鼻〔氷見港北部〕と魚津港北区北防波堤灯台とを結んだ線以南の区域
新 潟	新潟港の区域
酒 田	酒田港の区域
秋 田 船 川	秋田船川港の区域

水 先 人 会

各水先区における水先人会の概要は、次表のとおりである。

名称及び連絡先	乗 船 地 点	備 考
境水先区水先人会 TEL 0859-30-2124 FAX 0859-30-2128	境港防波堤灯台から $110^{\circ} 2M$ 付近 1 大型旅客船、大型チップ船 $35^{\circ} 33.0' N 135^{\circ} 19.0' E$ 付近 2 その他の船舶 $35^{\circ} 32.5' N 133^{\circ} 18.6' E$ 付近	<ul style="list-style-type: none"> 水先人用はしごは、特に要請しない限り、左舷側の水面上 1m に用意すること。 検疫錨地は大型船の錨地には適さないので、錨泊する場合は、境港防波堤灯台から $110^{\circ} 2M 35^{\circ} 32.5' N 133^{\circ} 18.6' E$ 付近を勧める。 美保湾は、避難地として多くの船舶が避泊し、一般船水先人乗船場所が占有されることが多いため、泊地確保に確保すること。 境港防波堤灯台から $143^{\circ} 1.9M$ を中心とする半径 $200m$ 内には四季を通じて養殖筏があるので注意すること。
舞鶴水先区水先人会 TEL 0773-77-5587 FAX 0773-77-5587	$35^{\circ} 33.1' N 135^{\circ} 19.4' E$ 付近	水先人用はしごは、風下舷に用意すること。
七尾水先区水先人会 TEL 0767-53-1192 FAX 0767-53-1193	荒神鼻上、能登島指向灯を 258.8° とする線上、次の 2 か所が設定されている。 <ul style="list-style-type: none"> 3 万総ト未満の船舶 $37^{\circ} 07.4' N 137^{\circ} 05.6' E$ 付近 3 万総ト以上の船舶 $37^{\circ} 07.6' N 137^{\circ} 07.0' E$ 付近 	<ul style="list-style-type: none"> 入港時 VHF による連絡が可能である。 夜間、港口に接近する場合は、少なくとも 3M 沖合から能登島指向灯の白光を視認航行し、針路左右の漁網に十分注意すること。 港内及び港口付近の航行水路内では通年にわたり、魚索等が多数ある。

なお、「海しる」に掲載していないもので、船舶の航行に支障を及ぼすおそれのあるものについては、その都度水路通報、管区水路通報で周知される。

ただし、水深 27m（沖縄県は 15m）以浅の沿岸海域には共同漁業権に基づく刺網、飼付、つきいそ漁業等が多数存在するが、個々の位置が確定していないので「海しる」には掲載しておらず、水路通報・管区水路通報では周知されない。「海しる」URL <https://www.msil.go.jp/>

魚礁 沿岸海域には多数の魚礁があり、これらの設置位置は海図に記載してある。なお、海図に記載されていないもので、船舶の航行に支障を及ぼすものについては、その都度水路通報・管区水路通報で周知される。

漁業用海図 日韓漁業協定の発効を契機に、同協定の水域線等を記載した漁業用海図が刊行されている。

- 1 「領海及び接続水域に関する法律」に基づく領海の基線及び限界線
 - 2 「排他的経済水域における漁業等に関する主権的権利の行使に関する法律」に基づく線 ~~(FW1009 を除く)~~
 - 3 「漁業に関する日本国と大韓民国との間の協定（平成 11 年 1 月 22 日 条約第 3 号）」に基づく線
- 漁業用海図は、次表のとおり。

海図番号	図 名	縮 尺
FW162	日本海西部	1/120 万
FW196	関門海峡至釜山港	1/25 万
FW1009	日本及近海	1/500 万

第 8 章 海 難 防 止

海 難

この水路誌の沿岸海域を航行する船舶は、本州の太平洋側に比較すると少ないが、北海道沿岸よりも多い。これら船舶の海難は、主要港湾付近を含めた距岸 3M 以内において多く発生している。

また、隠岐諸島北方から大和堆にかけての日本海中部など好漁場での漁船の操業が多いため、全海難隻数に占める漁船の割合が北海道沿岸に次いで高い。

冬季日本海沿岸及び津軽海峡を航行する船舶は、各種の気象通報及び海上予報・警報などの気象情報に十分注意し、荒天が予想される場合には出港を延期し、また航行中の場合には荒天準備を早目に行い早期に避泊地に向かうなど、十分余裕をもって船舶を運航することが肝要である。

日本海南西部での過去の大きな海難は、大部分が冬季の突風型によるものであり、この海域を航行する船舶は低気圧が通過後、気圧が上昇する際に突風を伴った強風が連吹し、視界も著しく悪くなるという点に十分注意し、避難時期などを誤らないよう注意する必要がある。

津軽海峡は船舶交通量が多く、海・潮流が強い。沿岸付近では反流があり、また、龍飛埼や大間埼などの主要岬角付近では、渦流と急潮があるので通峡の際は慎重に運航するとともに、冬季の強風による浸水、転覆及び視界不良時（夏季の濃霧、冬季の吹雪）における衝突に、特に注意する必要がある。

2 津軽海峡東口～津軽海峡西口

(1) 尻屋埼灯台 (41° 25.8' N 141° 27.7' E) の北東方約 4.5M付近から西航する場合

	変針目標及び概位	変針点及び針路	その他
イ	尻屋埼灯台	北北東方約 4.5 M 290°	
	※函館港へ向かう場合		
	尻屋埼灯台	北北東方約 4.5 M 290°	葛登支岬灯台に向首し、大鼻岬(41° 44.4' N 140° 42.2' E)の南方約 2Mにて徐々に右転し、港へ向かう。
ロ	大間埼灯台	正横約 6 M 252°	矢越岬灯台に向首する。
ハ	大間埼灯台	正横約 6 M 234°	龍飛埼灯台の北方約 4Mに向かう。
	※陸奥湾へ向かう場合		
	大間埼灯台	正横約 3 M 213°	大間埼灯台を 140° に見る。
	大間埼灯台	西方約 3.5 M 200°	平館灯台に向首する。
	高野埼灯台 41° 13.7' N 140° 32.9' E	235° に見る 177°	湾内各港に向かう。
	※小樽方面へ向かう場合		
	大間埼灯台	正横約 6 M 247°	白神岬灯台に向首する。
	矢越岬灯台	南南東方約 3.5 M 234°	矢越岬灯台を 342° に見る。
白神岬灯台 41° 23.9' N 140° 11.8' E	南東方約 2.5 M 276°	弁天島(41° 25.1' N 140° 05.3' E)～小島(41° 21.5' N 139° 48.5' E)間のほぼ中央に向かう。	

(2) 汐首岬灯台の南方約 4M付近から西航する場合

	変針目標及び概位	変針点及び針路	その他
	汐首岬灯台	南方約 4 M 234°	龍飛埼灯台の北方約 4Mに向かう。
	※函館港へ向かう場合		
	汐首岬灯台	南方約 4 M 290°	葛登支岬灯台に向首した後、前記 2(1)イの針路法により港へ向かう。
	※陸奥湾へ向かう場合		
	汐首岬灯台	南方約 4 M 252°	矢越岬灯台に向首した後、前記 2(1)ハの針路法により湾内各港に向かう。
	※小樽方面へ向かう場合		
汐首岬灯台	南方約 4 M 247°	白神岬灯台に向首した後、前記 2(1)ハの針路法により弁天島と小島のほぼ中央に向かう。	

3 陸奥湾～津軽海峡西口及び同東口

おおむね前記 1(1)イ、2(1)及び(2)の陸奥湾への各針路法を逆航する。

4 陸奥湾～函館港

気象、潮時、昼夜などを考慮して適宜針路を選定するのがよい。参考のため津軽海峡フェリーの常用航路を記載する。

(1) 北航する場合

	変針点	備考
1	青森港の鼻繰埼(40° 52.3' N 140° 50.1' E)から 270° 3.7M	
2	平館灯台(明神埼上)から 090° 3.5M	
3	大間埼灯台から 270° 10.1M	
4	穴澗岬(41° 45.4' N 140° 41.6' E)から 270° 1.1M	函館港第1南航路入口に向かう。

中野 1 号岸壁	35° 32.2' N 133° 15.1' E	240	12	30,000×1		
外港 1 号岸壁	35° 32.9' N 133° 15.3' E	370	9	10,000×2		
外港 2 号岸壁		260	7.5	5,000×2		
係 船 岸 壁	35° 32.9' N 133° 14.4' E	980	4~7	—	巡視船係留、定期船・渡船発着	
内 港	35° 32.8' N 133° 13.4' E	1 号岸壁	200	6	3,000×2	
		2 号岸壁	91	4.5	1,000×1	
		3 号岸壁	163	6	3,000×1	
		4 号岸壁	130	6.5	3,000×1	
竹 内	35° 31.7' N 133° 15.2' E	1 号岸壁	100	7.5	2,000×1	
		2 号岸壁	100	7	2,000×1	
		3 号岸壁	100	7.5	2,000×1	
		4 号岸壁	130	8	5,000×1	
竹内南 1 号岸壁	35° 31.4' N 133° 15.5' E	300	10.0	約 130,000 G/T×1	クルーズ船	
森 山 岸 壁	35° 32.9' N 133° 13.1' E	300	3~4.5	700×5		
外江 1 号岸壁	35° 32.5' N 133° 12.9' E	300	4.5	700×5		
外江 2 号岸壁	35° 32.3' N 133° 12.6' E			700×5		
中 野 岸 壁	35° 32.0' N 133° 14.7' E	550	3.5~4	700GT×8		
江島 1 号岸壁	35° 31.2' N 133° 11.5' E	165	9	10,000×1		
江島 2 号岸壁		130	7.5	5,000×1		

上表のほか、境港防波堤灯台の南西方約 1km の石油基地前面に棧橋(1~4 号)がある。

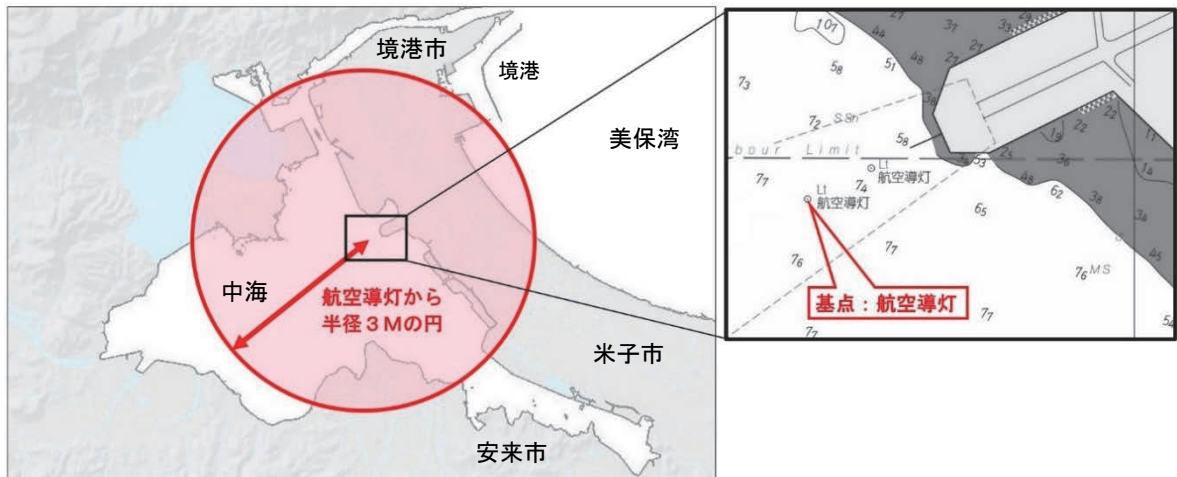
最大入港船舶 2019 年 9 月 16 日、旅客船 QUANTUM OF THE SEAS (167,800 t、喫水 8.8m) が昭和南 1・2 号岸壁に着岸した。

荒天時の注意 境海上保安部では、米子空港周辺海域における荒天時の走錨等に起因する事故防止のため、次のとおり錨泊の自粛を指導している。

自粛海域：中海に設置されている米子空港の航空導灯（西側）(35° 29.1' N 133° 13.1' E)を中心とする半径 3M 以内の海域（美保湾を除く）

自粛期間：気象庁から鳥取県米子地区又は島根県松江地区に「暴風」又は「暴風雪」の気象警報が発表又は発表が予測されるときから同警報が解除されるまでの間。

第 9 図 荒天時の錨泊自粛海域図



海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
島根県松江県土整備事務所 広瀬土木事業所	0854-32-2031		

松江港 (35° 27.3' N 133° 08.4' E) (海図W1174分図) (JP MTE)



(2020年6月撮影)

港種 港則法適用港

概要 宍道湖の東部、中海の西部及び両者を結ぶ大橋川を港域とする港である。大橋川河口右岸は通称馬潟地区と呼ばれている。

目標 大橋川河口右岸 (35° 27.1' N 133° 08.2' E) にある多数のタンク、サイロ及び煙突 (3本) は目標になる。

架橋 大橋川河口に中海大橋 (35° 27.1' N 133° 07.5' E) (高さ約17m) がある。

水路 港界付近から馬潟岸壁に至る水路 (幅約50m) は灯浮標及び浮標で示され、大橋川河口から同川上流にあるくにびき大橋 (35° 28.0' N 133° 03.6' E) までの水路は、水深4mに掘下げられているというが、通航には同水路に明るいことを必要と注意を要する。

港湾施設

名称	概位	長さ (約m)	水深 (約m)	係船能力 (t×隻)	備考
馬潟岸壁	35° 27.2' N 133° 08.2' E	280	3.5~5	1,000×4	東側に貯木場がある。
東朝日町物揚場	35° 27.9' N 133° 04.3' E	170	3	500×2	遊覧船発着
伊勢宮物揚場	35° 28.0' N 133° 03.7' E	60	2	500×2	遊覧船発着

上表のほか、会社専用の栈橋がある。

海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
中国運輸局島根運輸支局	0852-38-8111	島根県松江県土整備事務所	0852-32-5719
広島出入国在留管理局松江出張所	0852-21-3834		

港湾施設

名称	概位	長さ (約m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考
-4.5m岸壁	35° 35.7' N 134° 18.9' E	180	3~4	500×3	
-4.5m岸壁	35° 35.7' N 134° 19.0' E	125	4~4.5	500×2	
-4.5m岸壁	35° 35.7' N 134° 19.2' E	80	4.5		
-4.5m岸壁	35° 35.6' N 134° 18.9' E	60	3~4	500×1	2基の油タンクがある。

錨地 船だまり内は、底質砂で錨かきが良いという。東寄りの風及び北西風が強吹くときは、波浪が侵入するが、その他の風はよく防ぎ、特に奥部の船だまり内はすべての風をよく防ぐ。また、北西風の強吹時には、鶴島付近に三角波が生じるという。

補給 地元漁船を対象にした清水、燃料油及び氷の補給施設がある。

医療施設

名称	電話番号	備考
岩美町国民健康保険岩美病院	0857-73-1421	

余部埼～経ヶ岬 (海図W139、W1188)

概要 この間の約35Mは、数か所に砂浜があるほかは、山が海に迫りほとんどがけである。

久美浜港(35° 38.1' N 134° 55.0' E)(港則法適用港)(JP KMH)の東北東方約6Mに**浅茂川港**(35° 41.6' N 135° 01.0' E)(港則法適用港)(JP AMG)があり、浅茂川港の北東方約5Mに**間人《タイザ》港**(35° 44.6' N 135° 05.5' E)(港則法適用港)(JP TZA)がある。更に、間人港の東方約4.3Mに**中浜港**(35° 45.8' N 135° 10.9' E)(港則法適用港)(JP NKJ)がある。

目標

地物名	概位	備考
白石島	35° 39.6' N 134° 38.2' E	高さ60mの円形の島。周囲は白いがけで、北岸に奇岩が多い。
猫埼	35° 40.4' N 134° 45.9' E	樹木が密生し、北端に灯台がある。猫埼のある細長い半島(中央の高さ141mの山は東・西方から離島のように見える)は砂地の地峡によって陸地と連続する。
兜《カブト》山	35° 36.8' N 134° 54.7' E	高さ192m、顕著
穴埼	35° 41.5' N 134° 59.2' E	がけの岬で、西側の崩れたがけは遠望顕著。
犬ヶ埼	35° 45.4' N 135° 08.3' E	円頂の岬で、北側はがけを成し埼端に円すい形のとがった岩があつて遠望顕著。
依遅《イチ》ヶ尾山	35° 44.0' N 135° 08.3' E	高さ540m、絶壁の鋭峰
経ヶ岬	35° 46.6' N 135° 13.4' E	円頂で顕著、灯台がある。

漁業 この沿岸距岸5M以内では、9月中旬～翌年4月中旬の間は、地引き網と底引き網の漁業が、常時盛んである。また、距岸5M以内では、春～夏にかけてイカ釣り漁業が行われているので、航行船舶は注意を要する。

無線柱	35° 28.5' N 135° 23.4' E	高さ 69m
煙突	35° 30.0' N 135° 24.1' E	高さ 81m、赤白塗
煙突	35° 31.9' N 135° 20.7' E	高さ 257m、赤白塗
コンテナクレーン	35° 28.3' N 135° 19.8' E	高さ 60m、赤白塗、移動式

航路 港口の金ヶ岬東方付近から南東方の**三本松鼻** (35° 30.3' N 135° 20.6' E) 付近に至り、ここから2つに分岐し戸島の西側を通り伊崎付近に至るものと、戸島の北側を通り、**烏《カラス》島**付近に至るものがあり、いずれも法定航路である。

針路法 西港に入港する場合は、戸島の東端と三本松鼻灯台とを一線 (155.5°) に見て航路に入り、**牛糞《ウシクソ》鼻** (35° 30.9' N 135° 20.7' E) 正横後、針路 190° に変針して、戸島北端の**荊《イバラ》埼** (35° 29.9' N 135° 20.4' E) に正横後、航路を通り岸壁に向かう。

東港に入港する場合は、上記の針路にて航路に入り、牛糞鼻に正横後荊埼に針路 175° で向首して進み、三本松鼻を大回りして東方へ向かい、戸島東端を航過後、針路 088° で進み、烏島に正横後適宜岸壁に向かう。

なお、第3区内の距岸約400m以内には、各所にトリ貝、カキなどの養殖施設がある。

また、三本松付近にて、出入港船と出会うことがあるので注意を要する。

通信 船舶と港長との間で、無線電話による港務通信ができる。

呼出名称	周波数 (呼出・応答/通信)	運用時間	連絡先
まいづるほあん MAIZURU COAST GUARD RADIO	16/12ch	常時	舞鶴海上保安部 (港長)

架橋 第3区の黒鼻 (35° 30.5' N 135° 23.5' E) から対岸に舞鶴クレインブリッジ (35° 30.6' N 135° 23.3' E、高さ24m) がある。

水先 舞鶴水先区水先人会に要請にする。(第1編総記 第6章水先参照)

航泊制限 引火性危険物積載タンカーの引火による事故を防止するため、一般船舶は、港内に停泊中の同タンカー (タンク船を含む) から30m以内の海面に立ち入ることが禁止されている。なお、同タンカーは、港内停泊中、夜間でも容易に視認しうる「引火性危険物積載中」の垂れ幕等を掲げている。

港湾施設

西港

名称	概位	長さ (約m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考	
第2 ふ頭	1号岸壁	35° 27.4' N 135° 19.3' E	130	7.5	5,000×1	
	2号岸壁	35° 27.4' N 135° 19.2' E	185	9	15,000×1	ガントリークレーン
	3号岸壁	35° 27.3' N 135° 19.3' E	165	9.5	10,000×1	
	4号岸壁	35° 27.2' N 135° 19.3' E	165	9.5	10,000×1	
第3 ふ頭	1号岸壁	35° 27.2' N 135° 19.2' E	185	8.5~9	15,000×1	北側(150m)は護岸で係船できない。
	2号岸壁	35° 27.2' N 135° 19.1' E	185	8.5~9	15,000×1	
第4 ふ頭	-10m岸壁	35° 27.1' N 135° 19.0' E	185	8.5	15,000×1	
	-5.5m岸壁	35° 27.2' N 135° 18.8' E	300	3~3.5	1,000×3	

金 沢 港 (36° 38.6′ N 136° 36.4′ E) (海図W1193) (JP KNZ)



(2020年8月撮影)

港種 特定港、開港、検疫港、出入国港、家畜検疫の港、植物検疫の港、重要港湾

概要 福井港の北東方約35Mにある港である。この港は、金沢市の玄関口として造成された掘込式の港を主体として、港湾整備の進行に伴って逐次大型船の入港が増加している。また、大浜ふ頭は、多目的国際ターミナル（-13m岸壁）として港湾整備を進めている。

気象 年間を通じて東北東風が最も多く、北北西風、南南東風がこれに次いでいるが、風速10m/s以上の強風は、西寄りの風が圧倒的に多い。6、7月に濃霧の発生が多い。

潮流 石油岸壁の前面付近では上げ潮流は微弱であるが、下げ潮流は北西方へ流れ、その速度は0.5kn以下であるという。

目標

地物名	概位	備考
無線塔	36° 35.3′ N 136° 36.4′ E	2基、赤白塗、高さ約160m、約162m

入港上の注意 入港船舶は、北西風の強吹時には埋立地からの返し波があるから、西防波堤に接航して進入するとよい。岸壁に至る水路は、漂砂の影響により水深が変化することがあるので、注意を要する。

5～9月頃遊漁船などが稼動し、特に、夜間は西防波堤先端付近に出漁する遊漁船等に注意する必要がある。また、4月頃霧のため、入港が困難になることがある。

水先 水先法という水先区ではないが、七尾水先区水先人会が要請に応じる。(第1編総記 第6章水先参照)

航行制限 一般船舶は、港内に引火性危険物積載タンカー（タンク船を含む）が停泊している間、同タンカーから30m以内の水面に立ち入ってはならない。なお、同タンカーは、「引火性危険物積載中」と表示された垂れ幕等を掲げている。

港湾施設

名称	概位	長さ (約m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考
大浜ふ頭	36° 37.6′ N 136° 36.4′ E	400	12～13	30,000×1	多目的国際ターミナル
石油岸壁	36° 37.1′ N 136° 36.6′ E	600	5～7	5,000×6	
五郎島ふ頭	36° 36.9′ N 136° 37.0′ E	240	2.5～6	10,000×1	
御供田ふ頭	36° 36.6′ N 136° 37.3′ E	540	7～9	12,000×3	ガントリークレーン(2基)
戸水ふ頭	36° 36.5′ N 136° 37.1′ E	370	8.5	12,000×2	
無量寺ふ頭	36° 36.5′ N 136° 36.8′ E	70	3.5～4	2,000×1	
		260	10	100,000(t)×1	金沢港クルーズターミナル
無量寺突堤	36° 36.6′ N 136° 36.6′ E	270	2.5～5.5	2,000×3	
大野岸壁	36° 36.8′ N 136° 36.5′ E	180	3.5～4.5	1,000×3	

第6節 禄剛埼～新潟港 (海図W146)

禄剛埼～長手埼 (海図W1163)

概要 能登半島の東側は内浦と称され、北部に飯田湾があり、南部に七尾湾が西方へ深く湾入する。能登半島東岸から七尾湾、富山湾一帯の距岸2M前後には、定置網類が多数ある。

珠洲岬は、能登半島の北東端付近の総称で、禄剛埼 (37° 31.7' N 137° 19.6' E) からその南東方約2Mの遭《ソウ》埼 (37° 30.2' N 137° 21.0' E) までを含めたものである。

禄剛埼の南側に狼煙《ノロシ》漁港がある。

目標

地物名	概位	備考
姫島礁	37° 30.3' N 137° 21.6' E	遭埼から北東方へ約0.9M延びる岩棚で、その一部が水面上に露出し、灯台がある。
長手埼	37° 27.0' N 137° 21.6' E	低い岬で灯台がある。



禄剛埼付近

長手埼～赤埼 {飯田湾} (海図W1163、W1170)

概要 飯田湾 (37° 24.1' N 137° 16.9' E) は、長手埼とその南西方約7Mの赤埼との間にある開湾で、北西方へ約3M湾入する。海岸は一帯の砂浜で、距岸0.5M以内には、水深5m以下の浅水地が散在する。

長手埼から西南西方へ約5Mにある天保礁《テンポグリ》に至る間には、北西・南東方向の長さ0.3～1.5Mの定置網が所々にある。湾内西岸の距岸約0.8M以内の所々にワカメの養殖施設(10月～翌年5月)がある。湾中央付近には、大型定置網があるので注意すること。

西～北の風をよく防ぐが、冬季に前線を伴う低気圧が日本海を東進中、能登半島の北側では既に北西風となっているのにもかかわらず、この湾では、南～南西の強風が半日ぐらい吹き続くことがある。

湾の北岸には蛸島漁港、北西岸には飯田港がある。また、飯田港の南方に松波漁港がある。

港湾施設

名称	概位	長さ (約m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考	
公共ふ頭	1号岸壁	36° 46.2' N 137° 06.3' E	280	14	55,000×1	
	2~4号岸壁		555	9.5~10	15,000×3	
	5~6号岸壁		260	7.5	5,000×2	
	7~8号岸壁		120	4	700×2	
北1号岸壁	36° 46.4' N 137° 06.3' E	280	12~13	30,000×1	ガントリークレーン 2基、耐震岸壁(東側 280m)	
北2号岸壁	36° 46.4' N 137° 06.1' E	185	8.5~10	15,000×1		
北3号岸壁	36° 46.4' N 137° 06.0' E	60	5~5.5	700×1		
北4号岸壁	36° 46.4' N 137° 06.5' E	128	12	30,000×1	ガントリークレーン	
南水路栈橋	36° 46.0' N 137° 06.7' E	36	6	3,000×1		
東1~2号岸壁	36° 45.4' N 137° 07.7' E	370	6~9.5	15,000×2		
海王岸壁	36° 46.7' N 137° 06.6' E	220	7	15,000G/T×1		

最大入港船舶 2018年3月17日、LNG船SERI AMANAH (95,729 t、喫水12.43m)が北陸電力富山新港火力発電所LNG受入栈橋に着岸した。

停泊地 新湊航路東側に新湊沖船舶停泊地東A~C (36° 47.3' N 137° 08.7' E) 及び新湊沖船舶停泊地西A~C (36° 47.4' N 137° 08.3' E) の6灯浮標で囲まれる停泊地がある。日没から日出までの間、停泊禁止である。停泊地東西の定置網の設置に注意すること。

海事関係官公署

官公署名	連絡先
富山県富山新港管理局	0766-84-8292

医療施設

名称	電話番号	備考
射水市民病院	0766-82-8100	

海上交通 新湊大橋南側の水路を横断する渡船 (44 t、46 t) が頻繁に運行されている。

富山区及び付近 (海図W1162^A)

(2020年9月撮影)

概要 富山湾口の生地鼻東方約22Mにある港で、セメント、石炭などを取り扱う糸魚川経済圏の物流拠点港となっている。掘込式の港湾で、港内は東ふ頭地区（漁港区）、中央ふ頭地区、南ふ頭地区及び西ふ頭地区に分かれている。

西ふ頭では大改修工事が行われている。

目標

地物名	概位	備考
サイロ	37° 02.3' N 137° 50.3' E	4基、セメント用

水先 水先法にいう水先区ではないが、新潟水先区水先人会が要請に応じる。（第1編総記 第6章水先参照）

港湾施設

名称	概位	長さ (約m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考	
東ふ頭岸壁	37° 02.5' N 137° 50.6' E	60	3	700×1		
南ふ頭岸壁	37° 02.3' N 137° 50.5' E	90	5~5.5	2,000×1		
中央ふ頭	1号岸壁	37° 02.3' N 137° 50.4' E	130	7.5	5,000×1	セメント船専用
	2号岸壁		130	7~7.5	5,000×1	
	3号岸壁	130	7	5,000×1		
	4号岸壁	130	7	5,000×1		
	5号岸壁	37° 02.3' N 137° 50.5' E	165	9	10,000×1	セメント船専用 移動クレーン
西ふ頭1号岸壁	37° 02.4' N 137° 50.3' E	170	8~10	10,000×1	耐震岸壁 セメント船専用	
西ふ頭2号岸壁	37° 02.5' N 137° 50.2' E	170	9.5	19,000×1		
危険物取扱岸壁	37° 02.4' N 137° 50.2' E	100	5.5	2,000×1	化学薬品船専用	

最大入港船舶 2020年6月8日、貨物船 HELIOS (13,060 t、喫水 8.85m) が、中央ふ頭5号岸壁に着岸した。

海事関係官公署

官公署名	連絡先
新潟県糸魚川地域振興局地域整備部	025-552-9674

引船 引船が、直江津港から来る。

補給 清水の補給ができる。東ふ頭に漁協の給油施設がある。

医療施設

名称	電話番号	備考
糸魚川総合病院	025-552-0280	

第7節 佐渡島 (38° 06.2' N 138° 21.0' E) (海図W122)

概要 佐渡島は、南北の長さ約 65km、最大幅約 35km で、この島と本州とを隔てる**佐渡海峡**は約 100～500 m の水深があり、その最短距離は角田岬との間の約 17M である。

島上には 2 すじの山脈が並行して走り、北東方又は南西方からは二つの島のように見える。北側は、**金北山** (高さ 1,172m) を主峰とする**大佐渡山地**、南側は、**大地《オオチ》山** (高さ 646m) を最高峰とする**小佐渡丘陵**で、その間が、両津湾及び**真野湾**を東、西両端とする**国中平野** (地溝帯) である。この平野の北側を大佐渡、南側を小佐渡と呼んでいる。

小佐渡の南西端付近と外海府海岸と呼ばれる大佐渡の北西岸は、国定公園に指定され、海岸は海食された断がいで、距岸約 1M 以内に多数の水上岩や暗岩が散在する。真野湾のほかは風浪にさらされている。

佐渡島の東岸はその南部を除くほか、一般に、距岸 0.5M 以遠に危険はなく、200m 等深線は、所により距岸 1M 前後の所を通る。

潮流 佐渡島の北方沖合では、上げ (下げ) 潮流は南東方 (北西方) へ流れ、高、低潮時の約 1 時間後に転流し、流速は 0.5kn 以下である。

沢崎鼻～台ヶ鼻 (海図W122)

目標

地物名	概位	備考
沢崎鼻	37° 49.3' N 138° 12.3' E	佐渡島南西端のがけの岬で、灯台がある。
崖ノ鼻	37° 59.5' N 138° 16.2' E	高さ 33m、白色のがけは顕著
台ヶ鼻	37° 57.9' N 138° 15.2' E	灯台がある。

真野湾 (37° 58.0' N 138° 18.0' E) (海図W167) は、湾口 (田切須崎～台ヶ鼻間) の幅約 3.5M で、北東方へ約 4M 湾入し、南西方へ開口する。水深は湾口の 40m から奥に向かって漸減し、底質は一般に砂である。沿岸は、一般に遠浅で岩礁が散在する。

~~北～東風の場合は錨泊可能であるが、風向が南西～西へ急変する場合は、風浪が湾内に侵入し、脱出困難となることがあるので注意を要する。~~

湾口には大型定置網が設置され、湾内は水深が浅く岩礁が散在している。

西寄りの風が強い場合、うねりが侵入するため、荒天時の避泊は危険である。東寄りの風が強い場合は、国中平野を吹き抜けて時化となり、避泊には適さない。

湾内西岸に二見港がある。

二見港 (37° 58.7' N 138° 15.7' E) (海図W1168)



(2020年4月撮影)

概要 佐渡島の南西部に大きく湾入する真野湾西岸にある避難港で、同島のセメント基地として発展している。

目標

地物名	概位	備考
サイロ	37° 58.7' N 138° 15.6' E	上部クリーム色、下部青色、セメント用
煙突	37° 58.9' N 138° 15.8' E	高さ53m、白色

港湾施設

名称	概位	長さ (約m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考
二見港1号岸壁	37° 58.8' N 138° 15.6' E	165	5~5.5	2,000×1	
二見港2号岸壁	37° 58.8' N 138° 15.7' E	130	6.5~7	5,000×1	

上表のほか、二見港1号岸壁南隣に物揚場がある。

錨地 佐渡二見港防波堤灯台の東方には500~1,000t級の船舶に適する錨地がある。~~り、水深10m前後、底質砂で錨かきは良いという。~~

錨泊上の注意 真野湾口が南西方へ開いているので、西寄りの風が強くと湾内にうねりが浸入し、荒天時の避泊は危険である。東寄りの風が強い場合は、国中平野を吹き抜けて時化となり、避泊には適さない。~~り、荒天時の避泊には適さない。~~

補給 清水の補給ができる。

台ヶ鼻～弾埼 (海図W122)

概要 この間は、俗に外海府といわれる直線状の岩海岸で、距岸1Mまで岩礁や小島が散在している。

相川湾 (38° 01.8' N 138° 14.0' E) は、開湾で西方に開いている。湾口の幅約1.4Mで約0.6M湾入し、湾口の中央は、水深約16mあるが錨かきが悪く、強風ときには走錨のおそれがある。

目標

地物名	概位	備考
煙突	39° 47.1' N 140° 02.9' E	高さ189m、赤白塗、火力発電所構内
展望塔	39° 45.2' N 140° 03.7' E	高さ143m、セリオン
煙突	39° 44.6' N 140° 03.5' E	高さ101m、赤白塗、製紙工場構内

針路法 北方から入港する場合は、塩瀬崎の南方約2Mから針路105°で進み、秋田区の火力発電所にある煙突（目標の項参照）を095°に向首して、第1区入口に接近する。

南方から入港する場合は、針路000°で寒風山に向首して進み、秋田区に近づきころ火力発電所の煙突が見えてくるので、それを095°に見て変針、以後、同煙突に向首し第1区入口に接近する。

入口に近づいたならば、第2南防波堤先端部及び新北防波堤北西方約0.8Mから約6.1M付近の定置網（黄色浮標（黄灯付）4個付）に注意して、製紙工場の煙突（目標の項参照）を目標にして南、北両防波堤の中央を進み、掘下げ水路を通過して岸壁へ向かう。

入港上の注意 北西風の強吹時の入港は危険であり、大雨の後には、入口付近で約2knの外方へ向かう流れがあるという。夜間は、旧北防波堤先端の標識灯（39° 45.7' N 140° 02.6' E）（緑色）は、光力が弱く見えにくいので注意を要する。

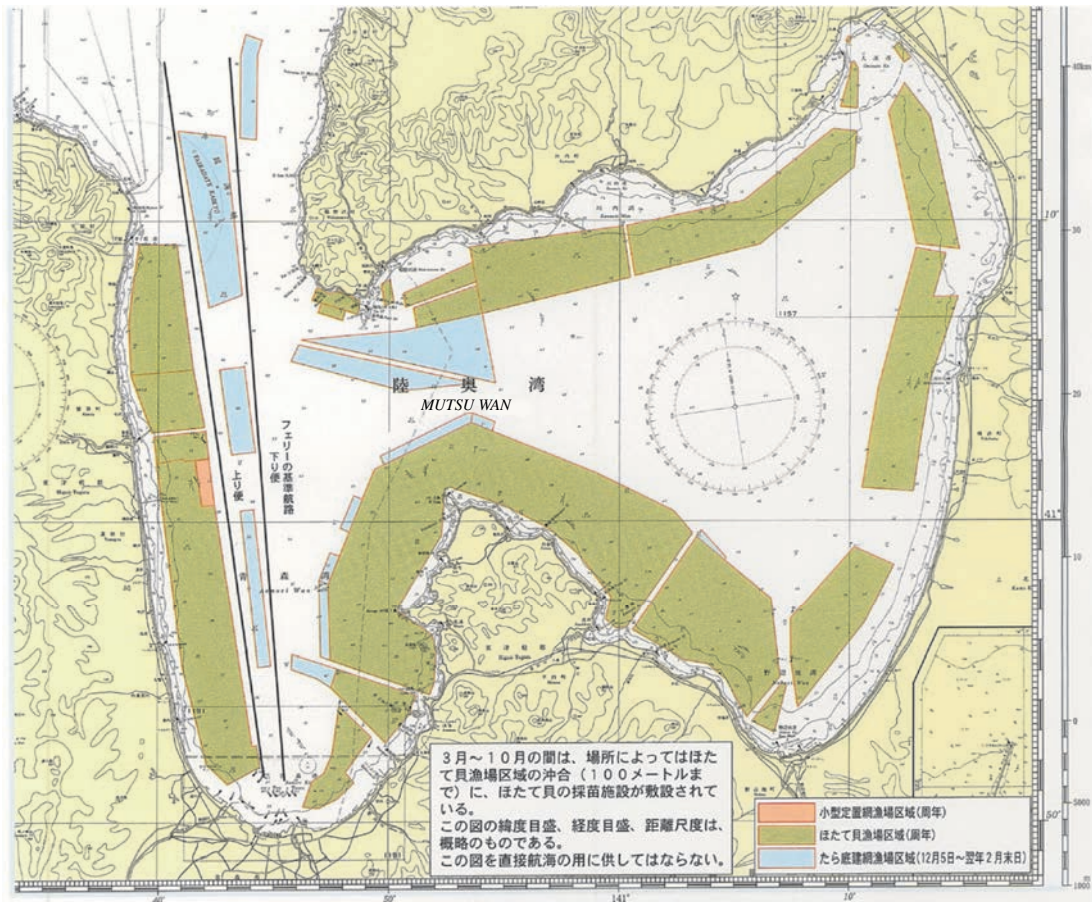
港則

	信号	目的地に関する記号	信文
進路表示信号（平成7年海上保安庁告示第35号）及び船舶自動識別装置の目的地に関する記号（平成22年海上保安庁告示第94号）	2代・N	N	秋田北防波堤灯台から旧北防波堤先端まで引いた線以北の係留施設に向かって航行する。
	2代・E	E	旧北防波堤先端から99°に陸岸まで引いた線（以下「A線」という。）以北の係留施設に向かって航行する。
	2代・E・N	EN	ENEOS 栈橋に向かって航行する。
	2代・E・C	EC	A線の南側の旧雄物川東側の中島岸壁から下浜ふ頭に至る間の係留施設に向かって航行する。
	2代・E・S	ES	A線の南側の旧雄物川東側の寺内ふ頭以南の係留施設に向かって航行する。
	2代・W	W	A線の南側の旧雄物川西側の係留施設に向かって航行する。

港湾施設

名称	概位	長さ（約m）	水深（約m）	係船能力（D/W×隻）	備考	
外港-13m 1号岸壁	39° 45.9' N 140° 02.4' E	270	12.5	50,000×1	クレーン2基、上屋がある	
外港-13m 2号岸壁	39° 46.1' N 140° 02.3' E	260	13	40,000×1		
飯島-11m 岸壁	39° 46.9' N 140° 02.1' E	190	11	18,000×1		
飯島-7.5m 岸壁	39° 46.9' N 140° 02.2' E	260	4.5~6.5	5,000×2		
飯島-5m 岸壁	39° 47.2' N 140° 02.2' E	130	4~4.5	1,000×2		
大浜	-4.5m 1号岸壁	39° 46.2' N 140° 03.0' E	60	3	700×1	
	-4.5m 2号岸壁		60	3	700×1	
	-10m 1号岸壁	39° 46.4' N 140° 03.0' E	185	10	15,000×1	
	-10m 2号岸壁	39° 46.2' N 140° 02.9' E	185	9~9.5	15,000×1	
	-10m 3号岸壁	39° 46.0' N 140° 02.9' E	185	9~9.5	15,000×1	

第14図 ほたて貝・たら底建網等の漁場位置図



平館海峡及び付近（海図W143）

概要 平館海峡(41° 10.3′ N 140° 42.4′ E)は、高野崎～焼山崎間を北口とし、今津北隣の岬角(41° 07.5′ N 140° 38.0′ E)と鯛島〔弁天島〕(41° 07.2′ N 140° 48.9′ E)との間を南口とする。

東、西両岸とも直線状で、海峡中央部は50～90mの水深があり、最狭幅約5.5Mで一般に通航は困難ではないが、夏季の濃霧、冬季の降雪時などは、通航を困難にすることが多い。

海峡西岸の高野崎～石崎(41° 11.5′ N 140° 37.9′ E)間は、それ以西のように険しくないが、沿岸に岩礁が散在し、陸側は、樹木の茂った山となる。

石崎～明神崎間は、海岸に沿って松が密生する。

平館港(41° 09.5′ N 140° 38.6′ E) (港則法適用港) (JP TDT)～蟹田川河口間のうち、北部の約3M間は石の浜である。南部の約4M間は山すそが海岸に臨み、距岸約150mの間は岩棚が所々に干出し、小舟も着けられない。

海峡東岸は、おおむね険しいがけで急深である。がけは光って種々の色に見える。陸側は、すべて樹木の茂った高い山が連なる。

潮流 平館海峡においては、流向は一定しないが、流速は1knを超えることは少ない。一般に上げ(下げ)潮流は南方(北方)へ流れる。

海峡の北部は、津軽海峡の環流区域に接しているため、流れの変化は不規則であるが、高野崎の沖合付近

Tai Shima	鯛島〔弁天島〕…… 188, 189	Tateishi	立石…… 195
Taima Yama	大麻山…… 59	Tateishi Misaki	立石岬…… 112
Tairadate Kaikyo	平館海峡…… 188	Tatoko Yama	田床山…… 55
Tairadate Ko	平館港…… 188	Tatsu Shima	竜島…… 124
Taisha Ko	大社港…… 65	Tatsu-ga-Saki	竜ヶ埼…… 123
Taitsuri Iwa	鯛釣岩…… 99	Tawara Shima	俵島〔油谷湾〕…… 48, 50 俵島〔隠岐諸島〕…… 75
Taiza Ko	間人港…… 93	Tenaga Shima	手長島…… 50
Tajiri Ko	田後港…… 92	Tengajo	天下城…… 111
Taka Shima	高島〔魚待ノ鼻北方〕… 31, 59 高島〔沖・島東北東方〕… 108	Tenjin Shima	天神島〔雄島〕…… 58
Taka Yama	高山…… 64	Tera Shima	寺島…… 133
Takahama Wan	高浜湾…… 108	Teradomari Ko	寺泊港…… 153
Takahira Yama	高平山…… 75	Teri Ba	テリ場…… 181
Takakura Gyoko	高倉漁港…… 130	To Shima	戸島…… 103
Takamihira Yama	高見平山…… 65	Tobi Shima	飛島…… 32, 175, 180
Takamori Yama	高森山…… 32, 180	Tobishima Gyoko	飛島漁港…… 181
Takano Saki	高野埼…… 41, 187	Todake Yama	遠岳山…… 52
Takao Yama	高尾山〔浜田港北東側〕… 61 高尾山〔大社港北北西方〕… 65 高尾山〔七類港南方〕… 68, 81	Toga Ko	戸賀港…… 175
Takasaki Yama	高崎山…… 72	Togi Gyoko	富来漁港…… 121
Takasu ko	鷹巢港…… 117	Tokami Yama	十神山…… 87
Takata Hana	高田鼻…… 75	Tomari Saki	泊埼…… 50
Takatsume Yama	高爪山…… 122	Tomo Shima	鱸島…… 63, 65
Take Shima	竹島〔油谷湾〕…… 50 竹島〔隠岐諸島〕…… 75 竹島〔日本海〕…… 79	Tono Saki	殿埼…… 193
Takenoko Iwa	竹の子岩…… 52	To-no-Ura	外ノ浦…… 61
Taki Ko	滝港…… 119	Tora-ga-Saki	虎ヶ埼…… 52
Taki Saki	滝埼…… 119	Torigakubi Saki	鳥ヶ首岬…… 147
Takigai San	滝谷山…… 108	Tori-ga-Hana	通ヶ鼻…… 54
Takigami Yama	滝上山…… 101	Tori-ga-Shima	鳥ヶ島…… 90
Tako Hana	多古鼻…… 31, 66	Torii Saki	鳥居埼…… 184
Takojima Gyoko	蛸島漁港…… 127	Toriko Shima	鳥子島…… 110
Takuhi Yama	焼火山…… 72	Tottori Ko	鳥取港…… 89
Tappi Saki	龍飛埼…… 32, 184, 187	Toyama Koro	富山航路…… 144
Tate Iwa	立岩…… 167	Toyama Ku	富山区…… 144
		Toyama Wan	富山湾…… 139
		Toyama-Shin Ko	富山新港…… 142
		Tsubaki Gyoko	椿漁港…… 175
		Tsubaki Yama	椿山…… 181